

2021年度 教育発達科学研究科・教育学部留学生相談室活動報告

教育発達科学研究科
旧 国際教育交流センター
谷 口 紀 仁

1. はじめに

2021年度における国際教育交流センターおよび教育発達科学研究科・教育学部における業務に関する報告を行う。

2. 留学生相談室業務の概要

まず、留学生に関連する相談者の相談業務対応件数の大半を占める「入学・研究生」関連の問い合わせは、主に研究生の入学出願希望者への対応である。研究生の出願は年2回あるが、受入希望教員への直接の連絡という形はとらず、留学生相談室にて出願希望者への出願方法の案内、Zoom インタビュー、各教員との調整を実施している。昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍にあり、Zoom インタビューから各教員との調整まですべてオンラインで実施した。

また、コロナワクチンの職域接種が7月に開始され、留学生に対して職域接種の案内を日本語・英語で送付、チューター及びチューティーに対する職域接種予約対応依頼の連絡、英語対応が必要な留学生に対して個別にメールを行い、対面でフォローアップした。

さらに、コロナ禍において、母国に帰国もしくは一時帰国する留学生が増加したため、随時、文系教務課と連携し、渡日困難者をエクセルでリスト化し、個別にフォローアップした。特に、在留期限の確認、全学パスの手配、滞り場所の把握など、一連の対応をした。

それに加え、7月以降は国費留学生の渡日が可能になったため、他学部の国際化推進教員と協力し、全学で国費留学生に対して待機期間中に孤立防止を目的とした面談会を複数回実施した。

昨年度と同様、今年度もコロナ禍において、オンラインでの留学生支援が中心となったが、可能な限り対面で相談のることによって、留学生の不安を払拭できるようにした。

3. 日本人学生支援

今年度も、昨年度と同様、コロナ禍にありニューヨーク市立大学やオレゴン大学とのプログラムが中止となった。その代替処置として、ノースカロライナ州立大学とのオンライン国際共同学習、アメリカのニューヨークにある国連機関やボストンにある日本語研修施設とオンライン留学プログラムの実施、3科目のオンライン授業を開講した。

まず、ノースカロライナ州立大学（NSC）とのオンライン国際共同学習では、4月に名大生20名とNSCの学生19名、合計39名が講義では日米の対人コミュニケーションの相違を学び、グループワークでは日米の友人関係の構築に関するインタビューを実施した。

次に、ニューヨークにある国連機関やボストンにある日本語研修施設のオンライン留学プログラムには、総勢約200名近くの名大生が参加した。コロナ禍においても、オンラインの日本語・英語での会話を通じて、米国人と接触し、米国文化を学習する機会を付与することができた。

さらに、オンライン授業では、政府の水際対策により日本に入国できない留学生約30名に、日本人学生との共修の機会を提供することができた。日本人学生も約30名が参加しており、海外渡航が制限される中での留学生との共修の機会を提供することができた。

来年度もコロナ禍が継続する場合、オンライン留学プログラムやオンライン授業を通じて、学生に国際交流の機会を提供したい。

4. 外国人留学生支援

今年度は前述の留学生支援に加え、計2回の新入留学生相談会（4月・10月）と1回の引っ越し相談会（2022年1月）をオンラインで実施した。毎回100名前

後の学生が参加し、各学生の個別具体的な質問にきめ細かく対応すると同時に、留学生同士のソーシャルネットワーク構築を促進した。

また、今年も短期日本語プログラム（NUSTEP）をオンラインで開講した。当日の開講式、閉会式、各教

員との調整等を主に担当した。

上記のオンラインサポートについても、日本人学生支援と同様に、引き続き安定的かつ継続的なサポート体制を整えていきたい。